第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

エゾサンショウウオ

Hynobius retardatus Dunn, 1923

竹中践（東海大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：竹中践，2026．エゾサンショウウオ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 696-700.

Citation: Takenaka, S., 2026. *Hynobius retardatus* Dunn, 1923. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 696-700.

有尾目 Caudata　サンショウウオ科 Hynobiidae　　日本固有

エゾサンショウウオ

***Hynobius retardatus* Dunn, 1923**

カテゴリー判定結果　情報不足（DD）　③

基準 A:　データ不足	基準 B:　データ不足	基準 C:　データ不足	基準 D:　データ不足	基準 E:　―

環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧カテゴリーに移行し得る属性（具体的には次の要素）を有しているが、生息状況をはじめとしてカテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。

③生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。

【判断理由】

分布域は北海道本島のみであり、日本産の同属他種とは系統的にかけ離れているほか、染色体数が大きく異なるといった独自性を有する。北海道全域の数量的情報は得られていないが、平野部では開発による繁殖環境の劣化や消失、外来種による捕食の影響等がみられており、個体数の減少が危惧される。山間部の状況はほとんどわかっていない。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

本種は日本のサンショウウオ属の中で特異的で、北海道のみに分布しているということだけでなく、染色体数が 40 本と他のサンショウウオ属の種（56 本ないし 58 本）と大きく異なる。また、尾が長いことも特徴的である。北海道本島のほぼ全域に分布することから、種全体の個体数や分布地点の減少の具体的な情報の集約はむずかしいが、開発による繁殖地の消失や外来種による捕食の影響がみられており、個体数の減少が危惧される。

基礎情報

【形態】

体の背面は一様に青みを帯びた暗褐色または黒褐色、腹面は灰色で微細な暗褐色の点があることがある。頭部は卵形で大きく、胴部は短く、肋条数は 11 本、四肢は長く後肢は 5 趾。尾は長く頭胴長の 111%ほどに達する。繁殖期のオスは尾がひれ状になり、顎がはって体側の皮膚がたるむ。全長 110～200 mm、頭胴長 60～87 mm。染色体数は 40 本。

【生活史】

繁殖期は普通 4～5 月だが、高地では 7 月になるところもある。止水や流れのゆるい流水中で産卵し、湖沼や沢だまり湿地など、多様な環境で繁殖する。水中の植物の茎葉、枯れ枝などの卵嚢の 1 端を付着させて産卵するが、多数のオスが待ち構えている場合や次々とメスが産卵に現れる場合があり、集合規模の大きい繁殖地では数百対以上の卵嚢が見られる場合もある。卵嚢 1 対中の卵数は 66～110 ほど。幼生期に頭部が大型化する表現型が知られており、エゾアカガエル幼生の捕食への適応や同種幼生の共食いが知られる。孵化時の幼生は全長 12～15 mm、変態時には 50 mm 以上に達する。幼生のまま越冬する場合があり、全長 100 mm に達することもある。変態上陸後は繁殖地周辺の林床などで生活する。オスで 4～6 歳、メスで 5～7 歳で性成熟し、16 歳の個体が捕獲された例がある。

【生息環境】

北海道に分布し、平地から山地まで広く沼沢地周辺に生息する。幼体、亜成体、成体は陸上生活で林床などに生息する。成熟後の個体は、春の繁殖期に湿地や沢沿いの水たまりなどの止水域または流れが緩い水たまりなどに集まってきて繁殖する。林道わきの水たまりにおいて繁殖することもある。また、沢などに敷設された砂防提が形成する緩い流れの水域でも繁殖することがある。広い湿原や小河川の河川敷といった環境だけでなく、耕作地域や住居地域における残存的な小規模な林地と湿地の混在する場所でも生息することがある。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林，草地，湿地・湿原・細流，ため池・池沼 【陸域_平地部】森林，湿地・湿原，河川中流域，ため池・池沼
国土地域区分：	（1）奥山自然地域，（2）里地里山・田園地域，（4）河川・湿地地域

【分布域】

島嶼を除く北海道（北海道本島）の全域から記録されている。

現在の生息状況

【分布域の現況】

島嶼を除く北海道（北海道本島）の全域から記録されている。分布域としては大きな変化はないが、農地化地域および都市化地域における繁殖地消失が進行してきている。

【生息地の現況】

成体、亜成体および幼体が生息するための林地と繁殖地となる水域の両方が、生息の継続に必要である。林地の消失または生息環境としての悪化は農地化、都市化等によって長期にわたって進行してきている。湿原の開発や水系の護岸等の改変も本種の生息に影響を与えてきている。また、北海道に人為導入および定着が進んできているアライグマによる捕食（とくに繁殖地における集合個体の捕食）の報告もある。

【個体数の現況】

本種の成体、亜成体、幼体の個体数密度の調査は困難な面があり、個体数の推移については、繁殖地における卵嚢数によって推定することになる。継続的に繁殖状況を調査されてきている地点では繁殖地の消失や繁殖数の減少が報告されている例もあるが、北海道全体の状況あるいは全体の状況が推定可能なほどの地点数の報告はない。

存続を脅かす要因

河川改修や丘陵地の牧草地化、土地開発、道路建設などによる生息地、繁殖地の減少が進み、外来種のアライグマの捕食の影響が確認されている。大規模な土地開発による影響もあるが、太陽光発電施設の設置、農地内の圃場整備、小規模な水路建設等による林床の断片化や乾燥化による生息環境の悪化がある。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備，土地造成，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による）
	（現在）	森林伐採，湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備，土地造成，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），発電施設建設

特記事項

特になし。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	エゾサンショウウオ	*Hynobius retardatus*	DD
第４次 2019：	エゾサンショウウオ	*Hynobius retardatus*	DD
第４次 2018：	エゾサンショウウオ	*Hynobius retardatus*	DD
第４次 2017：	エゾサンショウウオ	*Hynobius retardatus*	DD
第４次 2015：	エゾサンショウウオ	*Hynobius retardatus*	DD
第４次：	エゾサンショウウオ	*Hynobius retardatus*	DD
第３次：	エゾサンショウウオ	*Hynobius retardatus*	DD
第２次：	—	—	—
第１次：	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【北海道】絶滅のおそれのある地域個体群(Lp)(十勝平野個体群)(石狩平野個体群),留意種(N)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- 北海道環境生活部環境室自然環境課（編），2001．両生類・爬虫類：北海道の希少野生生物．北海道レッドデータブック 2001，pp. 191-195，北海道，札幌.
- 堀繁久・水島未記，2002．野幌森林公園の両生類について．北海道開拓記念館紀要，30: 21-26.
- 環境庁（編），1978．第 2 回自然環境保全基礎調査．動物分布調査報告書（両生・は虫類）（日本の重要な両生類・は虫類の分布 北海道版Ⅰ），大蔵省印刷局，東京．67pp.
- 環境庁（編），1982．日本の重要な両生類・は虫類の分布 全国版，大蔵省印刷局，東京．263pp.
- Michimae, H. and T. Emura, 2012. Correlated evolution of phenotypic plasticity in metamorphic timing . Journal of Evolutional Biology, 25:1331-1339.
- 日本爬虫両棲類学会（編），2021．新日本両生爬虫類図鑑，サンライズ出版，彦根．232pp.
- Nishihara, A., 1996. High density induces a large head in larval *Hynobius retardatus* from a low density population. Japanese Journal of Herpetology, 16(4): 134-136.
- 佐藤孝則・松井正文（編著），2013．北海道のサンショウウオたち．エコ・ネットワーク，札幌．258pp.
- 徳田龍弘，2015．改訂版北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑．北海道新聞社，札幌．95pp.
- 上野俊一，1981．エゾサンショウウオ．第 2 回自然環境保全基礎調査．動物分布調査報告書（両生・は虫類）全国版（その 2），pp. 123-125，大蔵省印刷局，東京.
- Weisrock, D. W., J. R. Macey, M. Matsui, and D. G. Mulcahy, 2013. Molecular phylogenetic reconstruction of the endemic Asian salamander family Hynobiidae (Amphibia, Caudata). Zootaxa 3626 (1): 77–93.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hynobius retardatus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hynobius retardatus* is listed as DD under criteria ③.

The species that possesses attributes which could easily shift it into the threatened categories due to changes in environmental conditions (specifically, the following criteria), yet lacks sufficient data, including habitat status, to determine its category.

③Distribution is biogeographically isolated (e.g., endemic species confined to a narrow range).

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】Forest, Grassland, Wetland/Marsh/Stream, Reservoir/Pond 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest, Wetland, Middle river basin, Reservoir/Pond
Threat types:	Logging and wood harvesting, Lake development, River development, Wetland development, Field preparation, Land development, Transportation infrastructure construction, Dam/River structures construction, Hunting and collecting animals/Gathering plants, Predation (by alien species), Power plant construction
Law designation status for conservation	—





執筆者:	竹中践（東海大学）
Author:	Sen Takenaka

公表年月：2026 年 3 月